

PEER

2014

報告書

目次

目次.....	1
はじめに.....	2
アンケートの結果.....	2
おわりに.....	10

はじめに

2012年11月の第1回、2013年12月の第2回に続き、2014年12月に第3回全国ピアスタッフの集いが開催された。それぞれの集いでアンケート調査を実施し、その概要は下記の通りである。

第1回全国ピアスタッフの集い

日時：2012年11月30日～12月1日

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）

回答率：回答数 59 / 参加者数 63 = 93.7%

報告書：<http://psilocybe.co.jp/wp-content/uploads/peer2012.pdf>

第2回全国ピアスタッフの集い

日時：2013年12月14日～12月15日

場所：聖学院大学（埼玉県）

回答率：回答数 53 / 参加者数 171 = 31.0%

報告書：<http://psilocybe.co.jp/wp-content/uploads/peer2013.pdf>

第3回全国ピアスタッフの集い

日時：2014年12月13日～12月14日

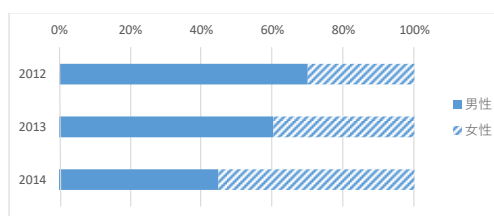
場所：聖学院大学（埼玉県）

回答率：回答数 91 / 参加者数 221 = 41.6%

アンケートの結果

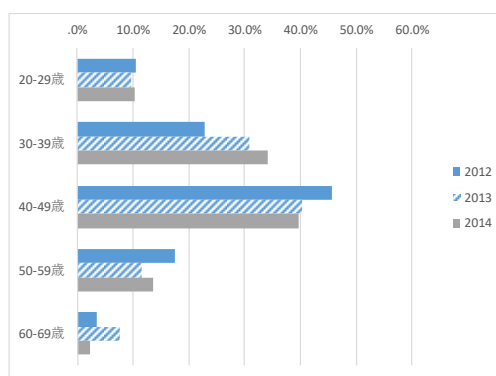
回答者の性別は、年々女性の割合が増加し、第3回では女性が過半数となった。

		時点			合計
		2012	2013	2014	
男性	N	40	32	40	112
	%	70.2%	60.4%	44.9%	56.3%
女性	N	17	21	49	87
	%	29.8%	39.6%	55.1%	43.7%
合計	N	57	53	89	199
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



年齢層については、30歳代が増加する一方、40歳代が減少していた。

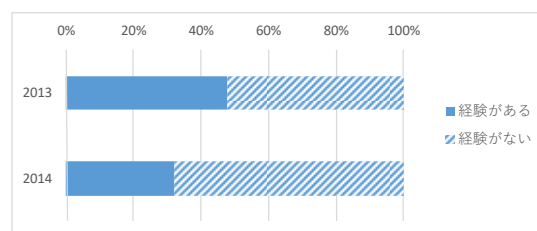
		時点			合計
		2012	2013	2014	
20-29歳	N	6	5	9	20
	%	10.5%	9.6%	10.2%	10.2%
30-39歳	N	13	16	30	59
	%	22.8%	30.8%	34.1%	29.9%
40-49歳	N	26	21	35	82
	%	45.6%	40.4%	39.8%	41.6%
50-59歳	N	10	6	12	28
	%	17.5%	11.5%	13.6%	14.2%
60-69歳	N	2	4	2	8
	%	3.5%	7.7%	2.3%	4.1%
合計	N	57	52	88	197
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



ピアスタッフとしての活動経験については、第2回よりも第3回で未経験者の割合が増加していた。

あなたは、ピアスタッフとして活動したことがありますか？

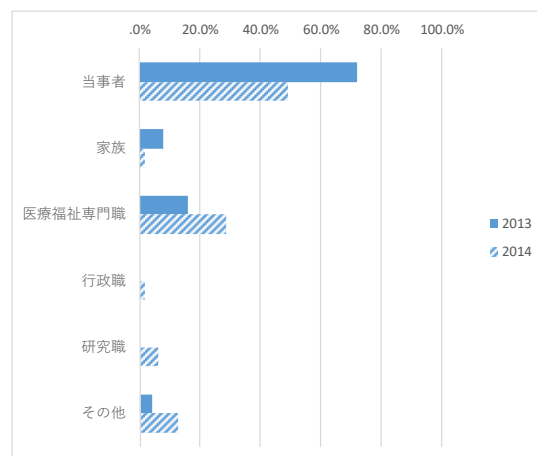
		時点		合計
		2013	2014	
経験がある	N	24	25	49
	%	48.0%	32.1%	38.3%
経験がない	N	26	53	79
	%	52.0%	67.9%	61.7%
合計	N	50	78	128
	%	100.0%	100.0%	100.0%



立場についての質問では、第2回より第3回で、医療福祉専門職の割合が増加し、当事者の割合が減少した。ただし、数自体はいずれも増加している。

今回の「集い」にはどのような立場で参加されましたか？

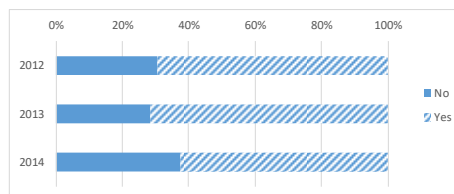
		時点		合計
		2013	2014	
当事者	N	18	31	49
	%	72.0%	49.2%	55.7%
家族	N	2	1	3
	%	8.0%	1.6%	3.4%
医療福祉専門職	N	4	18	22
	%	16.0%	28.6%	25.0%
行政職	N	0	1	1
	%	.0%	1.6%	1.1%
研究職	N	0	4	4
	%	.0%	6.3%	4.5%
その他	N	1	8	9
	%	4.0%	12.7%	10.2%
合計	N	25	63	88
	%	100.0%	100.0%	100.0%



ピアスタッフの活動の意義について、第1回～3回で同様の質問をしており、その回答結果を下に示す。

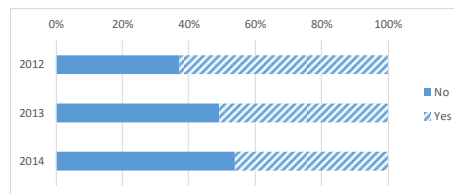
Q2-11) 体験を共有していることで支援者と被支援者の距離が縮まる * 時点

		時点			合計
		2012	2013	2014	
No	N	18	15	34	67
	%	30.5%	28.3%	37.4%	33.0%
Yes	N	41	38	57	136
	%	69.5%	71.7%	62.6%	67.0%
合計	N	59	53	91	203
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



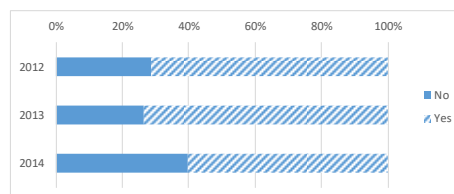
Q2-12) 利用者がピアスタッフに親近感を持ち、関係やつながりを深める * 時点

		時点			合計
		2012	2013	2014	
No	N	22	26	49	97
	%	37.3%	49.1%	53.8%	47.8%
Yes	N	37	27	42	106
	%	62.7%	50.9%	46.2%	52.2%
合計	N	59	53	91	203
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



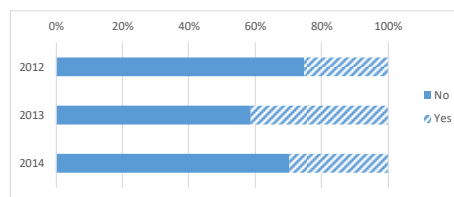
Q2-13) 「自分だけじゃない」という利用者の安心感や安堵感につながる * 時点

		時点			合計
		2012	2013	2014	
No	N	17	14	36	67
	%	28.8%	26.4%	39.6%	33.0%
Yes	N	42	39	55	136
	%	71.2%	73.6%	60.4%	67.0%
合計	N	59	53	91	203
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



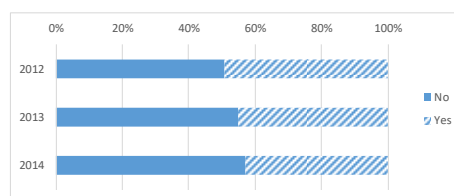
Q2-14) 利用できる資源のバリエーションが増える * 時点

		時点			合計
		2012	2013	2014	
No	N	44	31	64	139
	%	74.6%	58.5%	70.3%	68.5%
Yes	N	15	22	27	64
	%	25.4%	41.5%	29.7%	31.5%
合計	N	59	53	91	203
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



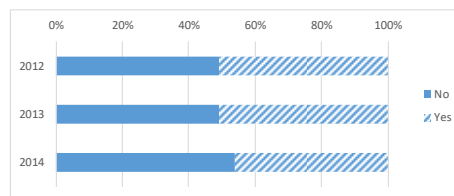
Q2-15) ピアスタッフの自信につながる * 時点

		時点			合計
		2012	2013	2014	
No	N	30	29	52	111
	%	50.8%	54.7%	57.1%	54.7%
Yes	N	29	24	39	92
	%	49.2%	45.3%	42.9%	45.3%
合計	N	59	53	91	203
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



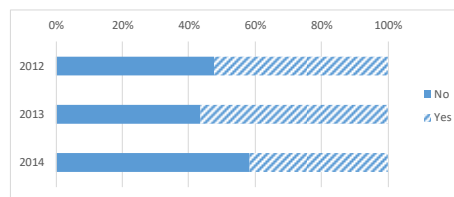
Q2-16) ピアサポートの実践を通して人の役に立ち感謝されるという喜びがある * 時点

		時点			合計
		2012	2013	2014	
No	N	29	26	49	104
	%	49.2%	49.1%	53.8%	51.2%
Yes	N	30	27	42	99
	%	50.8%	50.9%	46.2%	48.8%
合計	N	59	53	91	203
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



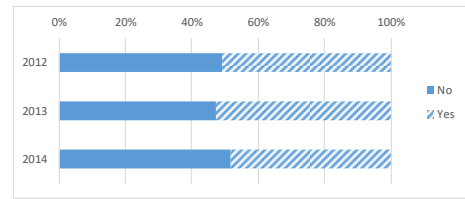
Q2-17) 援助することが援助される体験となり、元気になり、成長できる * 時点

		時点			合計
		2012	2013	2014	
No	N	28	23	53	104
	%	47.5%	43.4%	58.2%	51.2%
Yes	N	31	30	38	99
	%	52.5%	56.6%	41.8%	48.8%
合計	N	59	53	91	203
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



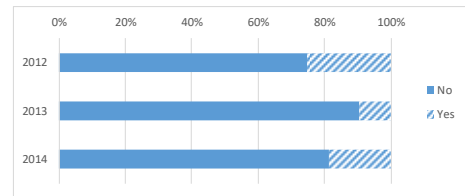
Q2-18) ピアスタッフは、スタッフと利用者の橋渡しができる * 時点

		時点			合計
		2012	2013	2014	
No	N	29	25	47	101
	%	49.2%	47.2%	51.6%	49.8%
Yes	N	30	28	44	102
	%	50.8%	52.8%	48.4%	50.2%
合計	N	59	53	91	203
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



Q2-19) その他 * 時点

		時点			合計
		2012	2013	2014	
No	N	44	48	74	166
	%	74.6%	90.6%	81.3%	81.8%
Yes	N	15	5	17	37
	%	25.4%	9.4%	18.7%	18.2%
合計	N	59	53	91	203
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



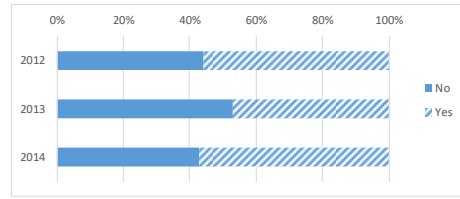
その他の回答として、下記のような回答があった。

- ・ 自分の経験を活かし少しでも多くの人をラクにできる
- ・ リカバリーモデルになる。希望が見つかる。対等性がある。
- ・ 利用者の目標たり得る
- ・ 支援活動がピアスタッフのリカバリーにつながる
- ・ 社会の一員として対等な処遇がはかられるべき
- ・ ピアスタッフをひとつのステップとして経験することで雇用主になった際の課題克服に役立つ
- ・ 自分も社会の一員として感じられる
- ・ 職業としての福祉（職）を批判的に評価し点検できる
- ・ 活動の場が広がることにより、偏見が無くなる事への期待
- ・ 同じ時間、空気を同じ立場で共有できる
- ・ 早期発見早期治療への助けになる
- ・ ピアはいつでも当事者の声を代弁できる立場である
- ・ 新たな雇用創出につながればと期待している
- ・ 専門職の専門性、従来の支援関係などを問い直すきっかけとなる
- ・ 支援者、当事者の距離が縮まるとともに、かきねがなくなる
- ・ 支援者が決めつけがちになりそうな事に、別の視点で疑問を投げかける事ができる

ピアスタッフの活動に関する不安や困難、課題についても、第1回～3回で同様の質問を
しており、その回答結果を下に示す。

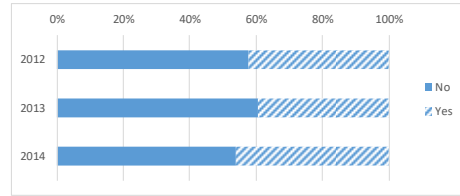
Q3-11) ピアスタッフが調子を崩さないか不安 * 時点

		時点			合計
		2012	2013	2014	
No	N	26	28	39	93
	%	44.1%	52.8%	42.9%	45.8%
Yes	N	33	25	52	110
	%	55.9%	47.2%	57.1%	54.2%
合計	N	59	53	91	203
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



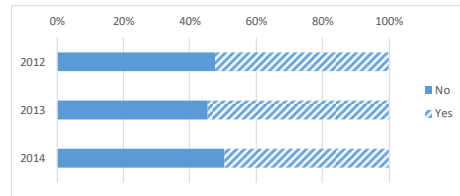
Q3-12) ピアスタッフの活動を支える財源がない * 時点

		時点			合計
		2012	2013	2014	
No	N	34	32	49	115
	%	57.6%	60.4%	53.8%	56.7%
Yes	N	25	21	42	88
	%	42.4%	39.6%	46.2%	43.3%
合計	N	59	53	91	203
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



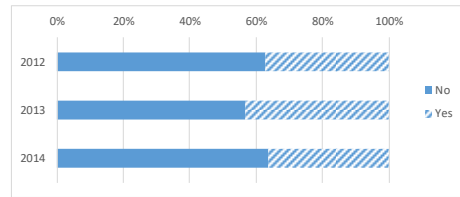
Q3-13) 給与・報酬や保険制度の整備が不十分 * 時点

		時点			合計
		2012	2013	2014	
No	N	28	24	46	98
	%	47.5%	45.3%	50.5%	48.3%
Yes	N	31	29	45	105
	%	52.5%	54.7%	49.5%	51.7%
合計	N	59	53	91	203
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



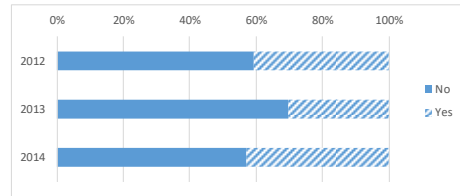
Q3-14) ピアスタッフがスタッフと利用者の板挟みになる * 時点

		時点			合計
		2012	2013	2014	
No	N	37	30	58	125
	%	62.7%	56.6%	63.7%	61.6%
Yes	N	22	23	33	78
	%	37.3%	43.4%	36.3%	38.4%
合計	N	59	53	91	203
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



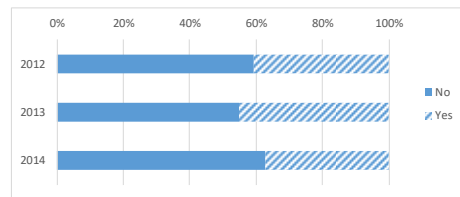
Q3-15) ピアとしての役割と支援者としての役割、二重の役割を持つことが難しい * 時点

		時点			合計
		2012	2013	2014	
No	N	35	37	52	124
	%	59.3%	69.8%	57.1%	61.1%
Yes	N	24	16	39	79
	%	40.7%	30.2%	42.9%	38.9%
合計	N	59	53	91	203
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



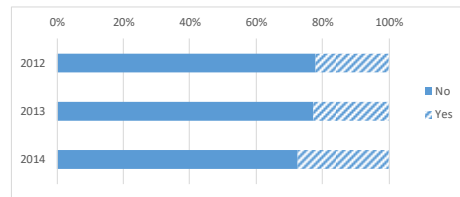
Q3-16) 利用者との心理的な距離の取り方が難しい * 時点

		時点			合計
		2012	2013	2014	
No	N	35	29	57	121
	%	59.3%	54.7%	62.6%	59.6%
Yes	N	24	24	34	82
	%	40.7%	45.3%	37.4%	40.4%
合計	N	59	53	91	203
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



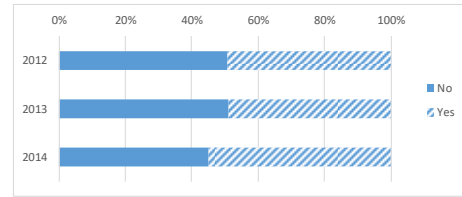
Q3-17) ピアスタッフと名乗ることによって利用者との対等な関係が損なわれる * 時点

		時点			合計
		2012	2013	2014	
No	N	46	41	66	153
	%	78.0%	77.4%	72.5%	75.4%
Yes	N	13	12	25	50
	%	22.0%	22.6%	27.5%	24.6%
合計	N	59	53	91	203
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



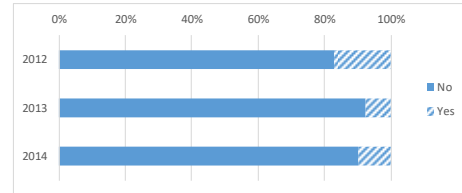
Q3-18) 研修やスーパーバイスの機会が不十分 * 時点

		時点			合計
		2012	2013	2014	
No	N	30	27	41	98
	%	50.8%	50.9%	45.1%	48.3%
Yes	N	29	26	50	105
	%	49.2%	49.1%	54.9%	51.7%
合計	N	59	53	91	203
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



Q3-19) その他 * 時点

		時点			合計
		2012	2013	2014	
No	N	49	49	82	180
	%	83.1%	92.5%	90.1%	88.7%
Yes	N	10	4	9	23
	%	16.9%	7.5%	9.9%	11.3%
合計	N	59	53	91	203
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



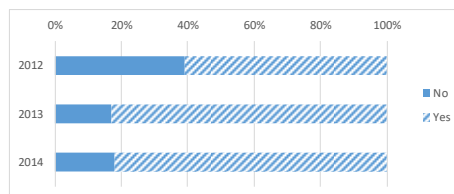
その他の回答として、下記のような回答があった。

- ・ ピアスタッフへの認知が不十分
- ・ 採用口がそもそも狭い
- ・ バウンダリーのむずかしさ
- ・ 全部
- ・ 職場の人的環境の整備…リカバリー志向が不十分など
- ・ 長期的な職としての見通しが無い
- ・ 地位
- ・ 今は仕事としてでは無く、ボランティアなので今後は不安です
- ・ 「ピア」でなくなる (ただの支援者) になる事が多いと感じる

ピアスタッフの活動の将来必要なことについて、第1回～3回で同様の質問をしており、その回答結果を下に示す。

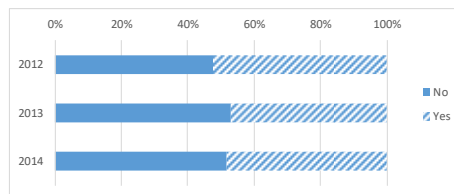
Q4-11) ピアスタッフの活動をより多くの人に知ってもらふ（普及啓発）* 時点

		時点			合計
		2012	2013	2014	
No	N	23	9	16	48
	%	39.0%	17.0%	18.0%	23.9%
Yes	N	36	44	73	153
	%	61.0%	83.0%	82.0%	76.1%
合計	N	59	53	89	201
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



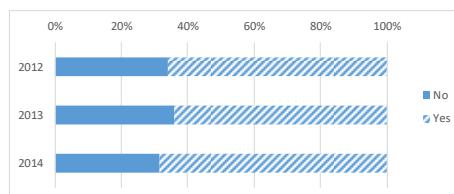
Q4-12) ピアスタッフの資格化や制度化* 時点

		時点			合計
		2012	2013	2014	
No	N	28	28	46	102
	%	47.5%	52.8%	51.7%	50.7%
Yes	N	31	25	43	99
	%	52.5%	47.2%	48.3%	49.3%
合計	N	59	53	89	201
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



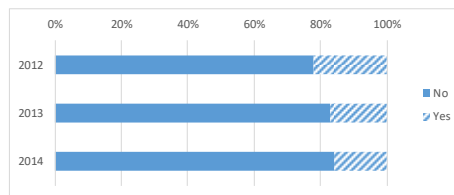
Q4-13) ピアスタッフのネットワークを作ること* 時点

		時点			合計
		2012	2013	2014	
No	N	20	19	28	67
	%	33.9%	35.8%	31.5%	33.3%
Yes	N	39	34	61	134
	%	66.1%	64.2%	68.5%	66.7%
合計	N	59	53	89	201
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



Q4-14) その他* 時点

		時点			合計
		2012	2013	2014	
No	N	46	44	75	165
	%	78.0%	83.0%	84.3%	82.1%
Yes	N	13	9	14	36
	%	22.0%	17.0%	15.7%	17.9%
合計	N	59	53	89	201
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

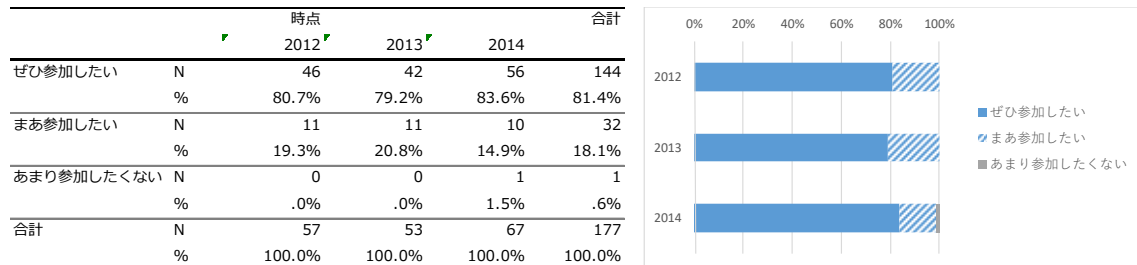


その他の回答として、下記のような回答があった。

- ・ 経済的保障
- ・ 研修やスキルアップを継続的に進めること
- ・ スキルの体系化
- ・ 将来的に当事者同士で施設で自治権を得て、自分たちで職員力を借りながら運営できればいいね
- ・ 雇用側の研修
- ・ もっと人数を増やす
- ・ 普遍的な考えをもって社会全体で考えるべき
- ・ 各施設でピアスタッフを必ず雇用する制度を作ること
- ・ 社会資源、社会活動に携わりその魅力を伝える力を習得すること
- ・ わからない
- ・ ピアとしての自分と当事者としての自分の有るかた
- ・ 行政の支援

- ・ 資格化は本当にピアなのでしょうか (対等性)
- ・ 「ピア」と意識しない「関係」を築く

「このような集いに今後も参加したいと思いますか？」という問いへの回答結果を下の図表に示す。毎回約 80%の回答者が「ぜひ参加したい」と回答していた。



3回の集いの全ての対象者（一部重複している可能性あり）をピアスタッフとしての経験の有無で2群に分けて回答を比較したところ、多くの項目で群間に差は見られなかったが、下記の通り「ピアスタッフの活動を支える財源がない」「利用者との心理的な距離の取り方が難しい」「ピアスタッフの活動をより多くの人に知ってもらう（普及啓発）」の項目で回答傾向に差が見られた。

経験がある回答者で、財源がないと回答したものの割合が大きかった。

Q3-12) ピアスタッフの活動を支える財源がない

		ピアスタッフとしての 経験がある	ピアスタッフとしての 経験がない	合計	Fisherの直接法 正確有意確率 (片側)
Yes	N	32	37	69	p= .031
	%	65.3%	46.8%	53.9%	
No	N	17	42	59	
	%	34.7%	53.2%	46.1%	
合計	N	49	79	128	
	%	100.0%	100.0%	100.0%	

ピアスタッフの経験がない回答者で、心理的な距離のとり方が難しいと回答したものの割合が大きかった。

Q3-16) 利用者との心理的な距離の取り方が難しい

		ピアスタッフとしての 経験がある	ピアスタッフとしての 経験がない	合計	Fisherの直接法 正確有意確率 (片側)
Yes	N	25	52	77	p= .070
	%	51.0%	65.8%	60.2%	
No	N	24	27	51	
	%	49.0%	34.2%	39.8%	
合計	N	49	79	128	
	%	100.0%	100.0%	100.0%	

ピアスタッフとしての経験がある回答者で、普及啓発の必要があると回答したものの割合が大きかった。

Q4-11) ピアスタッフの活動をより多くの人に知ってもらう (普及啓発)

		ピアスタッフとしての 経験がある	ピアスタッフとしての 経験がない	合計	Fisher の直接法 正確有意確率 (片側)
Yes	N	12	8	20	p = .027
	%	25.0%	10.3%	15.9%	
No	N	36	70	106	
	%	75.0%	89.7%	84.1%	
合計	N	48	78	126	
	%	100.0%	100.0%	100.0%	

おわりに

第 1 回、第 2 回に引き続き、第 3 回全国ピアスタッフの集いが開催され、第 3 回は 150 名以上の参加者が集り、さらなる継続開催を望む声が多かった。

また、この集い実行委員会のメンバーが中心となり、2014 年 9 月 14 日には「日本ピアスタッフ協会」が設立され、ピアスタッフ同士の交流の場として、ピアスタッフに関する情報収集と発信の場として、この集いを継続していく母体として、協会が機能することが期待されている。<http://peersociety.jimdo.com/>

アンケート調査の結果からは、ピアスタッフに関心をもつ当事者だけでなく、医療福祉専門職者にも参加者層が広がっていることが示唆される。また、ピアスタッフとしての経験の有無によって、今後のピアスタッフの活動に関する課題の認識、サービスに関する困難の認識が異なることも示唆された。

2015 年度からは、相川が研究代表者を務める「ピアサポートの意義および効果に関する包括的研究」が開始された。ここでは、ピアサポートによってもたらされる効果を実証的に明らかにし、ピアサポートの構造的な解明および理論的構築の深化を目的としている。

これらの活動が今後、利用者のリカバリーの促進、これまでの伝統的精神保健福祉システムからリカバリー志向へのパラダイス転換、地域で暮らすことを基本とした支援の展開に貢献することが期待される。

PEER

2014

第3回全国ピアスタッフの集いに関する報告書

発行日 2015年12月

作成 相川章子（聖学院大学）

協力 株式会社シロシベ

連絡先 a_aikawa@seigakuin-univ.ac.jp（相川章子）